

本日より5月である。桜の花、桃の花と続き、今はリンゴの花が咲いている。山々にはエネルギーが満ち溢れ、新緑の季節を迎えている。近隣の山は緑一色に見えるが、よく見てみると、同じ緑でも濃淡があり、鮮やかできれいである。

昔、学級担任をしていた頃、『薫風』というタイトルの学級通信を出していた。薫風とは、初夏の若葉や青葉の香りを含んだ穏やかな風のことである。「薫風の候」などと初夏の時候の言葉としても使われる。俳句では夏の季語となる。

季節は風薫る5月、まさにこれからが薫風の季節である。大型連休が始まり、鯉のぼりが登場する。これから物事が本格的に始まる、動き出すという躍動感に満ち溢れたエネルギーな季節である。

ただし、今年は例年とはかなり様相が違う。大型連休は家で楽しむものとなった。学校は臨時休業中だが、梁川高校の先生方は、それぞれが自分の役割を果たそうと、感染症対策を講じながら普段と変わりなく働いている。

学校が休みとなり部活動もないため、本校のグラウンドは草が元気に生えてしまっている。野球部の先生は、連日一人で草むしりに没頭している。テニスコートも使われておらず整備をする人がいない。ソフトテニス部の先生は、一人で重いローラーを引いていた。どちらも、学校が再開され生徒たちが戻ってきたことを考えてくださっている。

ネットワーク担当の先生は、こここのところ、オンライン授業の可能性を探ってくれている。送り手である学校、教員は何とかあったとしても、受け手である生徒の方の環境が問題である。全員の生徒にインターネット環境が整っていなければならない。スマートフォンでもよいが、Wi-Fi環境がなければ、通信料の負担をかけてしまうことになる。発想を転換して、少人数の本校ならではの学習方法を考えていきたい。

3年生の先生方は、一人一人の進路のことを考え、家庭学習の状況を把握しながら学校再開後の準備を進めている。家庭との連絡もまめにとってくれている。そこには並々ならぬ思いが感じられる。2年生の先生方は、電話での連絡に加え、必要に応じて家庭訪問を行ってくれている。1年生の先生方は、生徒が入学後、ようやく高校生活にも慣れてきたと同時に、疲れが出てくる頃に臨時休業に入ってしまう、一人一人のことを心配しながら、学校再開後の教育プランを練っている。

一方で、このような状況ではあるが、梁川・保原新統合校（仮称）に関わる協議も進めている。校訓、教育目標、教育方針、コースの名称など、新設校の“顔”となる部分を中心に保原高校と話し合いを行っている。校訓などは、後々ずっと残るものであり、建学の精神に関わる根幹の部分である。今後も協議を重ね夏までには固めていく予定である。

明日から5連休となる。感染の状況がどのようになるのか予断を許さないが、常に緊急時に備えて準備を進めている。今年の大規模連休を数年後に振り返ったときに、「あの時はずっと家にいたなあ」と思えるようにしたい。一斉臨時休業は“当面”延長され、学校再開は先延ばしとなった。例年と違うことは否定できないが、それでも先生方は動き出している。